



海上自衛隊横須賀総監部
砕氷船「しらせ」甲板士官
にしだ けんご
西田 健悟さん(甲南町野尻)

51

夢は「しらせ」艦長

昨年11月から今年4月まで南極観測船「しらせ」の乗組員として乗船された西田健悟さん。

自衛隊入隊のきっかけは、大学の卒業論文で安全保障をテーマに書くため海上自衛隊について勉強しているうちに、その魅力に惹かれ自分も海上自衛隊に入りたいと思われたそうです。

大学卒業と同時に海上自衛隊入隊され、平成20年9月に、輸送船「おおすみ」の機関士を経て今回の砕氷船「しらせ」の乗組員180人の一人として選ばれました。

子どものころから船や飛行機などの乗り物が好きだったという西田さん。「しらせ」の乗組員に任命されたとき甲板士官として大変光栄に思ったと語ります。

「しらせ」では、ペンギンの生態など南極の野外観測支援や、海洋観測支援などを担当しました。

「子どものころは、高速道路もなかったし、甲賀市の景色も随分変わりましたね。この前、電車で帰省したときに、最寄り駅の寺庄駅に降りて驚きましたよ。あんなに立派になっているなんて。」

帰省のたびに変わり行く甲賀市の風景を楽しむにされている西田さん。そんな西田さんの将来の夢は、「しらせの艦長になることです。」



▲中部小学校で教壇に立つ西田さん



水口小児童野洲川に稚アユ放流

大きく育ってね

水口町水口の野洲川で5月17日、稚アユの放流体験学習が行われました。体験学習に参加したのは水口小学校4年生81名で、子どもたちに川の環境の大切さを知ってもらおうと野洲川漁業協同組合が招待したものです。参加した児童は、鮎などの川魚の生態について説明を受けたあと、用意された9000匹のアユの成長を願いながら放流しました。



稚アユを放流する児童▶

一番茶手摘み始まる



近江茶の主産地である市内の茶園で、5月中旬から一斉に手摘み作業が始まりました。毎年、国や地域別に行われる品評会へ出展する茶は、評価がブランド

につながることから、新芽の一つひとつを丁寧に摘み取り、加工されます。今年は天候の不順が心配され、数日遅れの収穫になりましたが、質は例年と変わらないとのこと。市内で生産される近江茶は、全国で優秀な成績を収めています。



▶▶ 新芽を摘み取る皆さん
(上:信楽・下:土山)



元気なまちかど

元プロ野球選手が指導

全国少年少女野球教室



▶直接指導を受ける団員

プロ野球OB会主催の第17回全国少年少女野球教室が5月8日、甲賀市民スタジアムで開催されました。この野球教室には、甲賀市内外のスポーツ少年団16チーム約220名とその指導者が参加し、山本和行さんら6人の元プロ野球選手からの技術指導を受けました。参加した子どもたちは、グラブさばきや投球フォームを真剣な様子で教わっていました。

南極観測隊参加者との交流学習

中部小学校OBで、現在海上自衛隊に所属されている西田健悟さんが5月6日、母校の社会科の授業で、ゲストティーチャーとして招かれました。西田さんは、昨年11月から今年4月までの間、南極観測隊の一員として活躍しました。授業では南極の生態系調査や、めったに見られないオーロラなどをスライド紹介し、児童は興味深く聞き入っていました。また、南極の氷が披露されると児童一人ひとりが触りながら太古に思いを馳せていました。



▲南極の氷に触れる児童

ジュニアポリスが交通安全啓発



▶啓発チラシを渡すジュニアポリス

湖南甲賀交通安全協会信楽支部は、5月3日、「げなげな市」の会場で、街頭啓発を行いました。

啓発活動には、地元こここ園の5歳児16名がかわいい制服姿で参加しました。「交通安全お願いします」と訴える元気な声に、大人たちは笑顔でこたえていました。